丘友會報

発行　亀山市本町
亀山高校内
丘友会
会長　森　信夫
編集　丘友会事務局
印刷　オリエンタルKK

丘友会名簿第五号作成始まる

事務局　会員の協力を訴え

鈴鹿高女・亀山高校卒業生からなる丘友会は、毎年約五〇〇名の新会員を加え、すでに会員一五、〇〇〇名を越え、県下でも有数のマンモス同窓会に成長しました。会則により、五年に一度名簿を発行しなければなりませんが、五十二年度が第五号発行の年にあたります。六月に開かれた役員会で事務局の発行計画が了承され、七月からいよいよ準備作業が始まります。

より正確で豊富な内容を

来年度は、亀高創立三十周年にあたることもあって、より正確で豊富な内容を盛った名簿にしたいと考えています。名簿の生命である会員の現住所・郵便番号・勤務先（職業）・電話番号の正確を期するため、

①基本調査カードを全会員またはその家族に郵送し（この会報に同封）、その回答を名簿の原稿とする。

②消息不明者（住所変更などにより調査カードが届かない人）については、消息不明者一覧表を作成し、回答のあった会員の一部に配布し消息不明者紹介カードを返送していただいたうえ、それにもとづいて再調査する。

お届けしました会報に、基本調査カード、その他の案内文書を同封しましたので、カードに必要事項ご記入のうえ、おりかえしご返送ください。

また、名簿発行費を節約するため、購入予約制および祝金制度を設けますので、一人でも多くの方が、基本カードで予約下さることを期待しています。予約されない方も必ずカードをご返送ください。

なお、四十八年三月卒業（後の方は、卒業時にすでに名簿代をいただいていますので、全員に配布します。祝金応募者には名簿を一冊贈呈致します。

なお、名簿発行にかかわる業務（調査、予約、発送）を印刷業者（オリエンタル印刷KK）に委託しました。ご協力をお願いします。

（事務局）

校舎改築　本年度いよいよ完成へ

教頭　菊田　栄一

丘友会の皆様、ご機嫌よくお過しのことと存じます。ここに母校の現況の一端を述べさせていただきます。

校舎改築

昭和四十五年から改築の始まった校舎建築は、四十六年度までに第二棟（普通教室棟）が、四十八年度までに第一棟（理科、家庭と商業の一部を含む特別教室棟）がそれぞれ完成し、五十年度末から始められた管理棟（校長室等管理室、図書、視聴覚、LL、商業の一部を含む特別教室）も、いよいよ今年度中に完成する運びとなりました。改築総建坪約一万六百坪米、総工費約七億五千万円、実に八年の歳月を経ての落成を思えば感無量です。今後は内部設備は勿論、校地、校舎の環境美化に鋭意努力していきたいと思います。皆様方には教室工事が始まって以来物心両面にわたって、ご協力をいただきありがとうございました。校舎の改築とは別に、ふたば園の横に隣接して二、三軒の民家がありましたが、地元の方のご協力を得て取り払われ、母校の敷地になりました。長い間の念願がかなえられ喜んでおります。

卒業生の進路

不況下における生徒の就職は深刻です。求人数は希望者の三分の二程度で、従来多くの卒業生が就職した西日市コンビナート関係は希望者が圧倒的に多いにも拘らず求人は殆んどありません。多くの企業は少数精鋭主義の方針で、就職試験においても四人に一人は脱落する現状です。幸いにして求人のあった会社では好意的な所もあり、先輩の実績と地域性による亀高生の素質さを良く評価していただき、就職状態も良好でした。卒業時には就職率は百パーセント近くになりますが、希望を十分満たしているかどうかは疑わしく、成功であったか否かの判断に苦しみます。今後は今までの以上に基礎学力の向上に重点をおき、人に接する態度特に礼儀、言葉遣いなど日常から心掛けるよう指導していきたいと思います。

高校への進学率が九〇パーセントを超えた現在、群制度の影響もあって、進学状況は多様化してまいりました。国公立大学への進学者は十名程度ですが、これに代わって有名私立大学への進学者が増加し、今年も現役で多数合格いたしました。また、最近の傾向として専修学校、各種学校への進学者が増加しております。本校は地域的にも制約が少なく、生徒個々の進路の決定が遅いので、学校内外部の資料を収集して、コース別集会や進路別集会を開き、説明会、講演会、映画会等によって刺激を与え、進路の多様化に備えております。

平井一正選手重量挙成績

51年10月
佐賀国体　1位
60kg級　スナッチ　127.5kg　日本新
ジャーク　515.0kg日本タイ
トータル　282.5kg　日本新
51年11月
日中親善　60kg級　1位
52年3月
三重県青壮年大会
67.5kg級　スナッチ　133.0kg日本新
ジャーク　167.5kg
トータル　300.0kg日本新

運動部

年度	大会名	部	成績
51	全国高校総体	剣道女子団体	予選リーグで惜敗
		ウエイトリフティング・バンタム級	16位
		〃　フェザー級	14位
		〃　ミドルヘビー級	5位
		軟式庭球個人戦	2回戦
		体操個人	予選通過できず
		ソフトボール	2回戦
	東海高校総体	剣道女子団体	予選リーグで敗る
		ウエイトリフティング団体	3位
		軟式庭球個人	1回戦で敗る
		体操個人	8伴
		ソフトボール	1回戦10回延長で惜敗
	県内大会	バトミントン女子	県総体団体優勝
		ハンドボール男子	全国総体予選3位
		ハンドボール女子	県総体3位
		バレーボール女子	県総体中勢地区代表
		バスケットボール女子	県総体中勢地区代表
52	県内大会	陸上競技個人	春季選手権大会800m6位
		剣道女子団体	春季選手権大会　2位
		ウエイトリフティング団体	全国高校総体予選2位

52年度東海大会出場決定種目
ウエイトリフティング
剣道女子団体
52年度全国高校総体出場決定種目
ウエイトリフティング　4名

文化部

放送部
51年度高校放送コンテスト
朗読部門　個人　県2位、3位
アナウンス部門　個人　県3位、4位
いずれも全国大会に出場
51年度東海ラジオ放送コンクール優秀賞受賞

六、文化系十八あるますが、全校生徒の約五十四パーセントが参加しています。五十一、五十二年度でめざましい活躍をした部と、五十二年度東海大会、全国高校総体に出場が決定している部を別表により紹介します。全般に五十一年度は弱体の傾向にありますが、顧問、生徒とも十分努力を重ね逞進しています。また、本校教員平井一正選手（重量挙）がモントリオールオリンピックで三位入賞されたことは存知と思いますが、さらに五十一、五十二年度に日本新記録を樹立しましたので、これも別表により紹介しておきます。

では丘友会の皆様のご健康をお祈りし現況報告といたします。

総会のお知らせ

第二十回丘友会総会を、会則により、次の通り開催いたします。

名簿（第五号）発行、校舎改築・亀高創立三十周年記念事業など、会員各位のご意見を聴りたい案件が種々ございますので、ぜひご出席下さいますようお願い申し上げます。

また、当日は特別会員（旧職員）をご招待申し上げ、往時の思い出など共に語り合いたく存じています。

なお、ご出席の会員には昼食の用意をさせていただきます。

記

一、日時　八月七日（日）午前十時より
一、場所　母校給食室
一、協議事項
1、経過報告、会計報告に関する件
2、名簿発行に関する件
3、記念事業に関する件
4、その他

生徒指導

生徒の命を守ることを主眼に、今年度から生徒の単車通学に対して、大きな改革を行ないました。椿、西庄内、芸濃町河内地区等、学校から十キロ以上離れた地域では単車での登校を認めていましたが事故や違反が絶えないので、職員生徒が一丸となって対策を練り、結局、自宅から最寄りのバス停までの乗車に限り認めることにしました。単車に生き甲斐をもつ若い世代にあって、生徒会自身も十分な討議の上、前記決定をしたことに対して、良識あるわが亀高生の態度に感服いたしました。四月以来二カ月余りしか経っておりませんが、昨年同期に比べて事故は一件もなく違反も大幅に減っております。

部活動

放課後の部活動では、運動系十

背後の山が同窓会林（3月29日撮影）

同窓会林を訪ねて

学校長　後藤　裕文

丘友会の皆さん、お変りありませんか。私も本校へ赴任して二年目を迎えました。その間、年来の懸案でありました第一棟の建設も、ようやく着工の運びとなり、十一月完成を目ざして急ピッチで事が進められています。又、先般亀高卒業生有志の方々のご発意により、在校生たちのためのクラブ活動後援会も発足を見ることに運びました。これらはひとえに長い伝統を持ちかつ地域社会に深く根を下した本校ならではのことと感がたく感謝いたしております。

さて、かねてから同窓会の席上でしばしば拡張の話題にある「同窓会林」の話が出ました。この山林は紀元二千六百年を記念して、昭和十五年にかけて、当時の県立鈴鹿高女の職員生徒の方々が、折からの戦時下の耐乏生活の中で、心をこめて植林され、戦後亀高に引きつがれたものと、生徒諸君たちが入り代り、立ち代り下枝刈りに汗を流したという由緒あるものであります。従って、ただ単に丘友会の一財産であるばかりでなく、実に鈴鹿高女と亀高とをつなぐ絆の象徴である、又とない記念物とも言えるわけでありますので、できるだけ早い機会に、この山林を訪れ、現状をたしかめるとともに、かつての先輩の方々の母校に寄せられた熱心にふれて見たければ、と念願していました。

こうして年度も終わりに近い三月二十九日、ご多忙の中を万障くり合わせていただいた森会長さんを先頭に、西田事務長、野田先生ともども、稲垣助森組合の中川組合長さんの案内でおよそ二時間にわたり、この二町歩余の山林をくまなく歩き、見てまいりました。もっとも、草に泡をめぐらせた、かなり急斜面の山肌であるとは、丘会の雑草が生い茂っておりますのでいささか足もとのおぼつかない私は、とり落ちないのに精一ぱいでありましたが、三十余年前この山腹にとりついて、杉苗木を植えたり、あるいは下枝刈りに鎌をふるったであろう学生や高校生の方々のお姿を偲んで真に感無量なものがありました。

そして、すくすくと生い立った杉並木の一木一本に、ふとそのかみの鈴鹿高女、また亀高の若々しい生徒たちの群像を仰ぎ見る感がいたしました。これはその時のありのままの私の感慨であります。

明日知らぬいのちの日々を
乙女らは木を植えたしか
この山肌に

杉木立並び立ちたり
そのかみの植えし子らの
群像のごと

思うに、教育とは、木を植え育てることに似ていると言います。それは四十年、五十年たって初めてその真価が世に問われるということであるでしょう。

私ども母校の方々が、力をよせて植え、そして、あい伝えて育て来られた同窓会林にそそぐ指導と鞭撻のほどお願い申し上げ、報告に代えさせていただきます。

今後、そうご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げております。

背後の山が同窓会林（3月29日撮影）

事務局通信

▼現在、丘友会事務局は、母校勤務する会員から互選された数名によって運営されていますが、本年度は新たに一名を加え、計五名が本務のかたわらその業にあたっています。

どうか同窓生の皆さんのご理解と協力を！

事務局の面々は次のとおりです。

西村　栄二（高7回）
野田　和章（高9回）
福島　恭子（高10回）旧姓野田
平尾　栄治（高15回）
西村るみ子（高23回）旧姓本城
▼住所変更の連絡をたくさんいただいていますが、来年度名簿が完成されますので、本紙への紹介は略させていただきます。ひきつづき住所変更・改姓など同窓生の消息をお知らせ下さい。

クラブ活動後援会が発足

卒業生有志が募金呼びかけ

母校亀山高校も本年度生徒や三十回目の新入生を迎え、会員の生徒数も一、五〇〇人を数えています。そのうち半数以上の生徒が運動・文化のクラブ（部）に加入しいくつかの部では県代表として東海大会・全国大会に参加しています。しかし、諸物価高騰の中でその活動は年々苦しくなっています。

そこで、昨年の秋以来、卒業生有志が後援のために少しでもその活動を経済的な面から援助しようと呼びかけ、三回にわたる発起人会を経て、本年五月二十八日の総会で亀山高校クラブ活動後援会を発足させました。

その会則によりますと、「クラブ活動の円滑な運営と振興を援助する」ことを目的とし、総会・理事会の機関を置いてその運営にあたります。また第一回総会では、別表の役員を選出しました。

クラブ活動後援会役員

会長	平田　庄三（1回卒）	関町新所	
副会長	佐々木克二（3）	〃　中町	
	上田　元幸（5）	亀山市西尾町	
	長田　幸夫（5）	〃　穴淵	
	堀田　征（9）	東丸町	
	駒田　征男（9）	芸濃町椋本	
書記	岸　英毅（12）	亀山市本町	
会計	吉田　正彦（11）	〃　野村町	
監事	笠間　勇（2）	〃　東町	
	村山　昌弘（4）	〃　御幸町	
	葉田　隆夫（7）	〃　東台町	

すでに春以来、約一〇〇名の卒業生から約二〇万円の募金が本会事務局に寄せられています。

こうした卒業生の動きを受けて学校側でもその受入れ態勢を検討した結果、クラブ活動の補助金として、「会試合の参加旅費その他に使用することになりました。

寄附金の使途決まる

本年度中にも校門建設へ

昭和四十五年に始まった校舎改築に伴う丘友会員からの寄附金（総額二二、二三八円）はすでに学校へお渡ししましたが、その使途につき、昨年度の丘友会総会で、学校側の要望も含めて検討された結果、校舎完成時に校門を建設することに決定し、設計・業者の選定等については、学校側に一任することになりました。

校舎は本年十二月には完成する予定ですので、早ければ本年度中にも、県下有数の立派な校門が完成することになります。

寄附金を寄せていただいた多くの会員の方々に厚く御礼申し上げます。

◇　◇　◇

昨年度の会報発行以後、寄附金をお寄せいただいた方々は次の通りです。

一、〇〇〇円

鈴鹿商女20回有志

中村千代、富田十四子、森田

この三月、俗に言う定年退職で亀高を去った、森木という一教諭です。二十六年間、いろいろお世話になりました。「二十六年」で職任式のことを思い出しました。生徒がくすくと笑ったのです。どうしたのでしょうね。その間チョークの粉をまき散らし終った間として反省文を書けという意図で、この貴重な紙面を割いていただいたのだろうと思います。でも過去まったことは語りなくありません。ただ、一言だけ、「楽しかったなぁ」まさしく、虚実皮膜的発言です。「広辞苑」にいわく、（虚実皮膜）事実と虚構との中間に芸術の真実があるとする論。この「芸術の」を除いてみたらいかがでしょうか。

私は、現在、語ります。現在は過去であると共に未来でもあります。食っていくためには新しい働きを考えなければなりません。そういう私を拾ってくださったのは、なんと、愛媛県の方だったのです。「広辞苑」の編者、新村出先生の御子息で、名文名誉教授の新村猛先生です。なぜ私のような者に声が掛ったかというと、これは臆測ですが、私が中学校（京都一中）の後輩に当たるからなのだろうと思います。それが事実なら、同窓ってありがたいものですね。丘友会バンザイ。先生のことは、五月の中旬、朝日新聞のコラム、「ひと」に出ておりましたから、それを抜粋します。

「四十七年の同県知事選で（中略）一年後の名古屋市長選では、当選確実といわれながら落選した「人にわれないことを優先すべきだと考えたから」それは、十年前先生の父、出氏から話いた京都の木戸孝允の別邸、何万冊もの蔵書を中心にした新村重山文庫の運営、四十年前から父と手がけた「広辞苑」の補訂。……」その「広辞苑」の編集を手伝ってくれないか、というわけで、私に与えられた厚書は、「新村重山文庫・東海支部・辞書編集主任」というものです。

ごあいさつにかえて

森木　滋

母校在勤の西村栄一君から原稿依頼の電話を受けたのは、偶然にも同窓の友・前田孝君の家を訪れていた時であった。西村君は、大阪の学園へ電話をしてくれたところ、たまたま私が前田君宅へ行っていると聞いて改めてそちらへかけてくれたのである。その時の私といえば、一年ぶりで逢った前田君と久闊を叙しつつ杯を重ねて、かなりご機嫌になっていたところであった。

椿社に近く、静かな雰囲気に包まれた前田君の家で、初夏の一夜を楽しく過ごしていた私は、思わぬ西村君からの電話で一瞬にして二十余年前の高校時代に引き戻された。受話器の向こうから聞こえてくる西村君の声は、年齢相応に重々しくなっているとはいえ、やはり私にとっては紅顔の西村君の声であった。放送部のリーダーとして活躍していた頃の彼の声と、少しも変らぬように思えた。

電話を切ったあと、当然のことながら前田君と私は、在学中のことや母校の近況について話し合った。報道部に籍を置き、学校新聞の編集に毎日になり、ついには夜でも編集の仕事ができるようにと、ひそかに部室を改造し、一晩じゅうこもれるようにしたこと。どうやら完成という時になってそれが発覚して先生方から大目玉をくらったこと。当時、顧問をしていただいていた堀田栄治先生が、そのために随分と心を悩まされたことなど、若気の積気の脱線であったが、今となっては懐かしい思い出である。その堀田先生も、数年前に文部省を経められたあと、現在は、東京の大学でお元気に講義をされているとの噂。話は次々と尽きることがなかった。そしてまた、共に報道部で活動した谷口・井戸崎・渡瀬といった面々の近況など、郷里へ帰った時にしか聞けない話など、本当に、私の心を楽しませてくれた。

しかし、一方ではまた、在学中に出会った先生方の多くが、すでに転勤されたり退職されたりして、今は殆んど亀高にはおられないと聞いて寂しさを味わうと共に、過去った年月の長さを思い知らされもした。

そして何よりも変わったのは亀高の様子であることも知った。私の在学した頃の面影は全くなく、歩くたびにガタピシとした、廊下が鳴り、そして、それ故に古ぼけとなっては懐かしい木造校舎は、どこの昔になくなり格好の破棄の場所であった裏山も姿を消していること等々、卒業以来一度も母校を訪れることのなかった私には、隔世の感を抱かせることがかりであった。

翌日、帰阪の途すがら、少し回り道をして母校の傍を通ってみようと思い立ったのも、自分の青春時代を送った場所――今では、その頃の面影は全くない場所ではあるが――に立って、自己の歴史の一ページを読み返してみようと思ったからかも知れない。そして、その時の私の目に映った亀高は、やはり二十余年前の亀高そのものであったと思っている。（亀高第七回卒）

母校懐旧

本間文皓

亀高十三年目

教諭　渡辺　覚

明野高校から亀山高校に転勤してきてから、はや十三年目にはいっている。最初の頃は淡い思師がみえたが、今は八人位いである。古い校舎も消え去り、管理棟になっている木造の校舎を残すだけでわびしい。同窓会の事務局を担当していた時は、丘友会の会員の方々には大変お世話になりました。校舎建築の募金がおこなわれている時、北海道の岩見沢をはじめ全国各地から暖かい援助をいただきました。会員の方々がじっと母校を見守って下さるのはありがたいことです。

八年ぐらい前、大阪での万博を見に行っての帰り、ある駅のスタンドで牛乳を買おうと思った時、「今日は、先生……」と店員さんに挨拶されました。全国各地で卒業生が活躍されているのを見て、たのもしく思いました。私も母校のために一生懸命やらなければならないと思いながら、微力のためこれというまとまったことはやっていません。せめてもの償いに、この数年、予餞会に出場して、体ごとぶつかってやっている。歌はまずくても、心をこめ、ユーモアを交えて、話せばそれでよい。卒業生に「頑張ってやれよ」と力強く送りたい。

先日学校からの帰り、四日市市方面行きのバスに乗りましたが、そのバスの運転手の態度に感心しました。横断歩道のところでは必ず「横断歩道よし」と合図しており、乗客が降りる時は一車に礼をのべていました。大変感心のよい運転手さんでした。私もっと努力して、母校のために頑張らなければならないと思いました。

（亀高七回卒）

亀高創立30年・校舎改築完成

記念事業を計画中

会員の協力を

来年度は、昭和二十三年に新制高校として亀山高校が発足して以来三十年になります。また校舎改築が本年度中には完了しまして、これを機に記念事業を実施すべく検討中です。まだ最終決定はみていませんが、その内容としては、

1）丘友会の寄附金による校門の建設

2）将来の校史編集・発行とそなえての資料の収集・保存

などがあっています。

校史編纂のための資料収集は、校内はもとより、広く校外の協力をえて、本年度一学期から開始される予定です。丘友会としてもこの事業に協力をしたいと考えています。会員・特別会員（旧職員）の皆さんの在学中・在職中の資料で、校史編纂に役立つと思われるようなものがお手許にございましたら、提供または貸与いただきたく、またそれらに関連した情報がございましたらご教示いただきたく、お願いいたします。

資料の収集・保存状況は現在のところ必ずしも充分ではありませんが、皆さまのご協力を得て、将来立派な校史が発行できますように、よろしくご協力のほどお願いします。

（事務局）

職員の異動

◎春の人事異動により左記の方々が退職・転出されました。永年お世話になり、ありがとうございました。

氏名	在職年数	退職前	異動先
森田　寅生	29	教諭	亀高
豊田　滋	26	〃	〃
中村　太郎	19	〃	〃
中野　亮	13	〃	〃
中田　雄二	11	〃	〃
西村　之	11	〃	〃
森木　弘	11	〃	〃
奥田　直	6	〃	〃
黒川　生	11	〃	〃
奥垣　治	2	〃	〃
森　正	3	〃	〃
加藤　純子	年	用務員	保健室
菅原　道	年	〃	商業
今村　敏	年	〃	英語
今井　正	年	〃	英語
奥田　俊彦	年	〃	数学
森　恭也	年	〃	数学
鈴木　龍世	年	〃	社会
山口　敏夫	年	〃	国語
菅原　久子	年	〃	国語
加藤　彦	年	〃	体育

◎左記の方々が転入されました。今後、母校のためによろしくお願いします。

氏名	在職年数	前任校
大橋　克彦	3	紀南高校
川本　克巳	2	津高校
辻本　俊也	6	神戸高校
今村　恭世	11	津工業高校
奥本　敏夫	11	木本高校
森田　敏子	11	志摩高校
鈴木　龍進	11	尾鷲高校
山口　敏爾	13	新宮高校
菅原　直弘	19	四日市商業組合
加藤　久子	26	
藤原　彦	29	

母校での教育実習体験記

亀高二十六回卒　小倉淳子

昭和四十九年三月、皐の光に送られて以来四年、このたび教育実習生として母校にくることができたということは誠に有難く、また幸せなことでした。

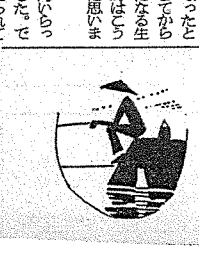
校舎、設備がよくなっていて驚きました。校舎は十事中の第一棟の竣工で完成だとのことです。特別教室、その他の施設が新しくできています。しかし、古かった校舎には伝統というものがありました。新しい校舎には表面的なものしかないので、これから伝統を作っていってほしいと思います。

服装規則も数年のうちとはずいぶん変わって、緩くなっているのに驚いています。例を二、三あげてみますと、私達のころは髪の毛の長さは、女子はあごの線より長くなったら結び、男子は耳が完全にみえないといけませんでした。女子のソックスは三つ折り、男女とも靴は黒の皮靴しかはけなかった等々。だから今の生徒をみていると、うらやましいです。時代の風潮だからしかたのないことでしょうか。

服装の規則が緩くなっている反面、単車の規則が厳しくなったと思います。私達が教生にきてからも、単車違反で厳重譴責になる生徒もいましたが、私達の時はこういうことはなかったように思います。

服部の先生方がたくさんいらっしゃってられて良いました。でも若い先生もずいぶん増えられて、校内が活気ずいてきたように思います。

先生と生徒との関係は、若い先生が多くなったせいか気軽に話し合っていてうらやましく思いました。

わずか二週間の教育実習でしたが、私達にとっては有意義な一週間でした。生徒を通じて形成えぬ思い出になることでしょう。

最後に指導下さいました諸先生方に感謝し、良き校風の発展を祈ります。（名古屋芸術大学在学）